

当院における新規血液透析導入患者 についての検討

かき ぼ とし あき もり わき り か
垣 羽 寿 昭¹⁾ 森 脇 里 香²⁾
うるし たに よし のり さ とう とし あき
漆 谷 義 徳²⁾ 佐 藤 利 昭¹⁾

キーワード：血液透析，慢性腎不全，糖尿病，ブラッドアクセス

要 旨

血液透析導入患者の最近の傾向を探る目的で，当院において新規に導入した症例についての検討を行ったので報告する。平成16年1月から平成19年12月の間に，血液透析を導入した126例を，原疾患により糖尿病性腎不全（DM）と非糖尿病性腎不全（非DM）に分け，導入時の臨床的特徴などについて検討した。平均年齢はDM 66.4歳，非DM 65.7歳。導入時の尿素窒素，血清クレアチニン，血清アルブミンはいずれもDMにおいて有意に低値であった。導入時の内シャントの有無により，透析導入から退院までの日数を比較すると，DM，非DMいずれも内シャントを有する例が有意に低値であった。DMでは，非DMに比してネフローゼ状態となりやすく，より早い段階からの透析導入が必要となることが多い。入院の長期化を避ける上でも，内シャント作成時期や透析導入時期についての早い見極めならびに患者教育が重要であると思われる。

はじめに

高齢化，糖尿病患者数の増加，糖尿病治療の進歩による罹病期間の延長などを原因とする糖尿病性腎不全・透析患者の増加が，合併症の面からも医療経済の面からも大きな問題となっている。

透析導入患者の最近の傾向を探る目的で，当院において新規に血液透析を導入した症例について

の検討を行ったので報告する。

対象および方法

平成16年1月1日から平成19年12月31日までの4年間に，当院において新規に維持血液透析を導入した126例を対象とした。原疾患により糖尿病性腎不全群（DM群）と非糖尿病性腎不全群（非DM群）に分け，導入時の臨床的特徴，ブラッドアクセスの有無および入院期間への影響などについて検討を行った。原疾患の診断については，腎生検施行歴のあるものはその組織所見から，それ

Toshiaki KAKIBA et al.

1) 松江赤十字病院糖尿病・内分泌内科

2) 同 血液・免疫・腎臓内科

連絡先：〒690-8506 松江市母衣町200